



ADRC Highlights

Asian Disaster Reduction Center Monthly News

Vol. 321
December
2019

トピックス

メンバー国との防災協力推進

アジア防災会議2019の開催

関係機関との防災協力推進

JICA研修「アフリカ総合防災行政」コースの実施

Asian Disaster Reduction Center アジア防災センター

〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通
1-5-2 東館5F

Tel: 078-262-5540
Fax: 078-262-5546
editor@adrc.asia
http://www.adrc.asia

© ADRC 2019

●メンバー国との防災協力推進

アジア防災会議2019の開催

2019年11月25日から27日にかけて、トルコ・アンカラ市のシェラトン・アンカラ・ホテル&コンベンションセンターでアジア防災会議2019が開催されました。本会議は、アジア防災センター（ADRC）メンバー国、関係機関が毎年一堂に会し、仙台防災枠組、持続可能な開発目標等の実施に向けた、アジア地域の先進的な防災情報や取組みを共有し、さらにADRCのネットワーク強化を図るものです。本年はADRC、トルコ政府、日本政府が共催し、メンバー国20カ国に加え、防災関係機関、研究機関、企業等から計148名が参加しました。本年の会議は開会式、基調講演、特別発表に続き、5つのテーマ別セッションで構成されました。



11月25日、開会式ではスレイマン・ソイル内務大臣、内閣府平将明副大臣、ADRC濱田政則センター長、在トルコ日本国大使館宮島昭夫大使、メフメット・ギュルオールAFAD総裁により開会の辞が述べられました。

基調講演ではアルティンバス大学ゼキ・ハシュケル教授が1999年8月17日に発生したイズミット地震で得られた経験と教訓、特に耐震補強や二次災害の防災対策の重要性について講演しました。続く特別講演では国連防災機関ポール・ローゼンバーグ氏が仙台防災枠組の実施のモニタリングについて発表しました。

セッション1は「近年における防災の課題と革新的なアプローチ」と題し、衛星観測、GIS技術を活用したモニタリング、情報収集等、先進的な事例に関する報告が行われました。

セッション2は「実践的な地震・津波リスク管理」とテーマとし、地震、津波リスク管理に関し、建物健全性モニタリング、建築基準、地震に誘発されるGLOF対策、住民啓発等さまざまな分野からの報告がありました。

セッション2の終了後、内閣府主催の企業に関するサイドイベントに続き、参加者はAFAD本部を訪れ、オペレーションルームを見学する機会を

続き

得ました。

11月26日、セッション3は「予期せぬ状況への対応力強化を目指した学校防災教育」をテーマに、メンバー国政府、援助機関、国連機関、NGOが実施する多様な学校教育の実践例の発表がありました。また、「世界津波の日」2019高校生サミットに参加したトルコの高校生から報告が行われました。

続いて、「砂塵嵐に対する地域戦略の開発」と題するセッション4では、砂塵嵐災害の影響、モニタリング、対策に関する事例報告があり、今後メンバー国、地域レベルの協力を促進の必要性が述べられました。

セッション5は「巨大災害からの復興」をテーマに、大規模災害を経験したメンバー国からの復興の経験・教訓、ガバナンスの改善について発表があり、事前復興の法制度化の重要性が再確認されました。

閉会式ではADRC鈴木所長と各セッションの議長が登壇し、会議を総括し、閉会となりました。

最終日となる11月27日は現地視察として、参加者はアンカラ市内で博物館、旧市街地を訪問し、トルコの歴史と文化に触れる機会を得ました。

会議の詳細につきましてはホームページ (https://www.adrc.asia/acdr/2019_index.php) をご覧ください。

●関係機関との防災協力推進

JICA研修「アフリカ総合防災行政」コースの実施

ADRCは、国際協力機構（JICA）からの委託事業として、2019年9月24日から11月1日にかけて、防災行政官を対象とした研修「アフリカ総合防災行政」コースを実施しました。本年は、アルジェリア、カーボベルデ、エジプト、エスワティニ、ガーナ、マラウィ、スーダンの7ヶ国から14名が参加しました。研修員の多くは防災担当部局の政府機関で勤務する職員です。

この研修では、中央・地方レベルでの日本の防災システムを学ぶとともに、水害、土砂災害、地震などへの対策、学校防災教育、コミュニティ防災、気象台の役割等について講義を受けました。また、タウンウォッチング演習の参加、鬼怒川の視察等を行うなど多くの実習、見学にも参加しました。

研修員は日本の防災への取り組みに高い関心を示し、様々な講義、見学に対し大変熱心に参加しました。帰国後、彼らが研修で学んだ知識や手法が、自国のより良い防災体制の構築に寄与していくことが期待されます。

当研修実施にあたり、訪問等を受入れていただきました各関係機関の皆様に厚くお礼申し上げます。今後とも引き続きご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



鬼怒川視察

問い合わせ・配信申し込み

このニュースレターに対するお問い合わせ、またEメールによる配信をご希望の方は editor@adrc.asia までEメールをお寄せください。